

循環される税制度

須崎市立朝ヶ丘中学校3年 寺村 心那

私は小さい頃から両親の影響で洋楽が好きで、いつしか英語に興味を持った。もっと英語を学びたい、楽しみたいと思い、J Pのペンパル制度を利用してスロベニアの友人と文通したり、英会話教室に通っていた。

そんな私はこの夏、人生最大の経験をすることができた。それはカナダに二週間ホームステイしたことだ。見るもの聞くもの肌で感じるもの、全てが新鮮で刺激的な時間だった。こんな貴重な体験ができたのも「税」が関係している。

私の住む須崎市を含む近隣五市町村からなる高幡地域には、中学生を対象とした海外研修がある。ここ数年コロナの影響で中止になっていたが、今年四年ぶりに復活した。告知を見た時の私は胸が高鳴り参加したいと強く思った。しかし費用が二十万と高額であり、一般家庭の我が家にそのような余裕があるはずもなく、あきらめようと思っていた。そんな私の思いに気付いた母が、

「大丈夫。税金の滞納がなければ、研修やレポートとかの条件を満たせば研修後に半分戻ってくるき。何も心配せんでえいき、がんばってみいや。」と、背中を押してくれた。私は英語や海外への思いをつづった作文を提出し、須崎市の代表の一人に選ばれた。

カナダでは英語力やコミュニケーション力など落ち込むこともあったが、パディや友人らに支えられ今まで気付かなかった自分を知り、もっと自分を好きになり、前を向いて生きていこうと強く思えた。

この貴重な体験は税のしくみの上に成り立っている。市の事業なので費用負担には税金が使われている。返金の条件には滞納がないことが決められており、正しく納めて正しく使用することが伝わってくる。

私は今まで税金と言えば文房具やお菓子を買った時に払う消費税くらいしか身近に感じていなかった。しかし今回のことで税の循環を身を持って知った。

納税は国民の義務である。しかしそのほとんどは意識されず納めていたり、使われ方を意識することもなかった様に感じる。

高知県の中学生一人当たりの教育費は一年間で百八十一万千円だ。これは私を成長させてくれるために国や市町村が出してくれている。私はこの額に見合った学生生活を送っているか。もっと真剣に今を生きていき、しっかり自分の頭で考え、学びから得たことを社会に返せる大人にならなければいけないと思った。そしていつか自分でお金を稼ぐようになれば、しっかり納税をして、社会人としての役割を果たしたい。

税の制度はただの社会のルールだけではない。それが循環されるからこそ生まれるものもある。税の循環は学びの循環だと思う。